

中学部 生活単元学習 学習指導案

日時 令和3年7月1日(木) 10:00~11:10

場所 きぼうの棟(特別教室)

対象 中学部2年生 6名

指導者 T1 宮崎義宏, T2 黒木美帆,
T3 山下野乃花

1 単元名「夏祭りをしよう(夏の行事)」

2 単元について

○生徒観

本学年には1年時より在籍している生徒が5名、本年度転入してきた生徒が1名、計6名が在籍している。日常生活では、個別のスケジュールや手順書を活用している生徒もいる。一斉の口頭指示で、指示内容を理解して取り組むことができる生徒は少数である。学校生活の中で自分から積極的に友達に関わろうとする場面は少ないものの、友達を気遣って話しかける生徒もおり、中学部2年生の仲間であるという意識は、6名がそれぞれに十分にもっている。また、今年度1名の転入生が加わり6名となったことで、話し合い等では生徒からの意見が多く出るようになった。

昨年度から在籍していた5名は、昨年度も同じ時期に「夏祭りをしよう」の授業を経験している。屋台を一人で作る活動を行い、はさみで切ったり、折り紙を丁寧に折ったり、自分で色を選んだりきれいに塗ったりするなどし、美術や自立活動の指導内容を中心に扱った単元において、美術と自立活動の個人目標を多くの生徒が達成することができた。単元に取り組む際も、授業が始まると積極的に道具を借りたり、休憩を取り入れながらも時間いっぱい取り組んだりする姿が見られた。

また、生活単元学習のその他の単元や作業学習等において、工程を分担して一つの物を作りあげたり、同じ作業を同じ場所で取り組んだりするなど、グループで活動することも経験し、積み重ねてきている。

○単元観

昨年度の「夏祭りをしよう」の単元では、制作活動において身近な道具の使い方を知ることや使う経験を増やすことができるといった美術の目標や、目と手を協応させることができるなどの自立活動の目標を中心に単元を計画した。今年度は、生徒観にも挙げた生徒の実態の変容も踏まえ、グループ活動を行う中で、協力しながら自分の仕事に取り組むことや、自分達で計画して作業を進めていくことをねらっていきたい。

そこで、本単元において、屋台の模擬店の準備やお客さんのやりとりを通して、販売について触れたり、人によるこぼれるように仕事(役割)を果たそうとしたりするなどの社会科の目標を、単元目標の1つに設定することとした。

また、今年度は作業学習や生活単元学習の畑仕事などでの仕事の経験が増えることで、他者と協力して働くことの意欲が高まってきている。そこで、本単元において、グループ活動を中心として屋台について話し合いながら計画したり、それぞれが協力し合って準備を進めたりするなどの、職業・家庭の職業分野の目標も単元目標に設定することとした。

○指導観

本単元では、生徒から出てくる夏のイメージをもとに「夏の天体」や「地域の夏の行事」、夏にまつわる昔話を扱ったり、昨年の活動を振り返ったりしながら夏祭りへの意欲を高め、実際に校内の児童生徒を招待し特別教室で店を開いて働く人としての経験をすることで、働くことへの意欲を育成したい。そこで、導入、計画・準備、リハーサル、本番の四つの段階に分け、活動に取り組むこととする。

導入段階では、上でもあげたように、様々な夏のイメージをもとに夏の天体や夏の行事の動画を電子黒板で見ることで、自分達で夏祭りをする意欲を高められるようにする。また、昨年度に自分達が行った屋台の模擬店を振り返り、やってみたい模擬店への想像が膨らむようにしたい。

計画・準備段階では、働く意識を高めるために準備段階から特別教室で2つのグループに分かれ、活動の進捗度合いを視覚的に確認できるように、「本番までにやることリスト」を拡大掲示して随時できた数を付箋で貼っていくようにし、それらを見ながら相談し合って、それぞれの仕事を決定しながら取り組めるようにする。また、生徒自身がお客さんを想像しながらタブレット端末でインターネット検索を行い、夏祭りのちらしや衣装を調べ、自分たちなりの夏祭り作りに取り組んでいきたい。また、働く意義を感じたり、友達と協力することを意識したりできるように、グループで相談しながら準備した道具や商品等を看板にまとめるなどの活動を行う。

リハーサル段階では、「働くときのきまり」を全員で確認したり、学習者用PCで自分たちの接客の様子を動画で撮って振り返りをしたりすることで、働く人としての意識が持てるようにする。また、ちらしとチケットを直接来客に配布しに行き、実際に接客することへの意識を高めていきたい。

最後に、本番段階では、校内からの児童生徒の来客を招いて屋台の模擬店を成功させ、達成した喜びが感じられるようにしたい。

3 単元の目標

○来場者に喜んでもらえるものは何かを自分達で考え、活動に取り組む。(社会)

○グループの友達と協力をして仕事に取り組む。(職業・家庭の職業分野 以下職業分野と記す)

4 単元の計画 (全 32 時間) 6/16~7/12

次	時	日時	学習内容	指導内容 (学習指導要領か学習内容表から)
1	2	6/16②	○夏の行事について知ろう。 (夏の星空, 全国の夏祭り) ○夏祭りの見通しをもとう。 ・どんな屋台にするか ・グループ分け ・チラシ作り	・理科, 自然との触れ合い ・社会, 伝統的な文化 ・国語, 聞くこと・話すこと

2	15	6/17③ 6/18③ 6/21③ 6/24③ 6/28③	○屋台を作ろう。 ○チケットを作ろう。 ○生産者よりの看板を作ろう。	・社会、係や当番の仕事 ・社会、手伝い・仕事 ・美術、表現 ・職業分野、働くことの意義
3	6	6/30③ 7/1③ 【本時】	○屋台のリハーサルをしよう。 ・あいさつの仕方 ・チケットの交換方法	・職業分野、人とのかかわり ・職業分野、職業生活の具体的内容
4	6	7/5③ 7/8③	○お客さんを呼んで 夏祭りをしよう。	・職業分野、人とのかかわり ・職業分野、職業生活の具体的内容
5	3	7/12③	○ふりかえりをしよう。	・職業分野、働くことの意義 ・国語、書くこと

5. 単元の個人目標

生徒	個人目標
g	① 教師が提示した選択肢の中から、相手を想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中1)
	② 販売への見通しを持って準備に取り組むことができる。(職業分野, 中1)
h	① 来場者が喜んでもらえるものは何かを考え、選ぶ事ができる。(社会, 中1)
	② 働くことに関心を持ち、活動を通して達成感を得ることができる。(職業分野, 中1)
i	① 教師が提示した選択肢の中から、相手を想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中1)
	② 働くことに関心を持ち、活動を通して達成感を得ることができる。(職業分野, 中1)
j	① 教師が提示した選択肢の中から、お祭りを想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中1)
	② 活動の役割がわかり、自分から取り組むことができる。(生活, 小3)
k	① 相手を想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中1)
	② 販売への見通しを持って準備に取り組むことができる。(職業分野, 中1)
l	① 教師が提示した選択肢の中から、相手を想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中1)
	② 活動の役割がわかり、自分から取り組むことができる。(生活, 小3)

6 本時のねらい (各教科等)

○グループの友達と協力をしてリハーサルに取り組む。(職業・家庭の職業分野)

7 本時の個人目標

生徒	個人目標
g	・丁寧に、商品を袋に入れて、次の係に渡すことができる。(職業分野, 中 1)
h	・商品を渡し、感謝の言葉を言うことができる。(職業分野, 中 1)
i	・商品を渡し、感謝の言葉を言うことができる。(職業分野, 中 1)
j	・あいさつや決まった文を、適切なタイミングで言うことができる。(生活, 小 3)
k	・場の状況を把握して、必要な道具の準備をすることができる。(職業分野, 中 1)
l	・適切なタイミングで、お客さんに言葉かけをしたりチケットを受け取ったりすることができる。 (生活, 小 3)

8 本時の展開

時間	学習活動	指導・支援
9:45	1 はじめのあいさつをする。 2 目標の確認をする。 3 働くためのきまりを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・特別教室に集合するよう伝える。 ・日直にあいさつをするよう促す。 ・本時のめあてと、月曜日に設定したグループの目標を、ワークシートを使って確認する。どのクラスのお客さんが来るのかを確認する。 ・働くためのきまりを、教師の後に続けて言うよう指示する（生徒間の距離を十分に取る）。 ・見えにくい場合は場所を移動しても良いことを伝える。
10:00	4 グループにわかれ、お客さんを迎える準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子や机の準備が滞る場合は、その都度言葉かけを行う。
10:10	5 リハーサルを行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・働くためのきまりや、各グループで決めためあてを随時確認する。
11:10	6 ふりかえりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・あいさつや立ち居振る舞いをワークシートでふり返る。 ・各グループの代表者を決め、その場で発表するよう伝える。
10:10	7 次の授業の見通しをもち、おわりのあいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・次の時間に片付けをすることを伝える。 ・おわりの挨拶を日直へ促す。

9 本時の個人目標の評価

生徒	個人目標	評価	評価の根拠, 次回に向けて
g	丁寧に, 商品を袋に入れて, 次の係に渡すことができる。(職業分野, 中1)	△	次の係に, 「○○さん, おねがいします。」と言葉を言いながら商品を渡すことができた。 しかし, 手先を見ながら袋に入れることが難しく, 巧緻性・視線の集中の問題があげられる。
h	商品を渡し, 感謝の言葉を言うことができる。(職業分野, 中1)	○	両手で袋を渡せていた。 「ありがとうございました。」も大きな声ではっきりと言うことができた。
i	商品を渡し, 感謝の言葉を言うことができる。(職業分野, 中1)	○	お客さんに対し, 両手で商品を渡し, 接客をすることができた。また, 笑顔で「ありがとうございました。」と言うことができた。
j	あいさつや決まった文を, 適切なタイミングで言うことができる。(生活, 小3)	△	促されて言うことができた。 様子を見て自発的にあいさつをすることは難しい。
k	場の状況を把握して, 必要な道具の準備をすることができる。(職業分野, 中1)	○	始めのうちは促されて準備をしていたが, 繰り返すうちに, 状況を判断して商品の補充ができていた。
l	適切なタイミングで, お客さんに言葉かけをしたりチケットを受け取ったりすることができる。(生活, 小3)	○	お客さんが来たことに気がつく, チケットを受け取ったり, プラカードを使って言葉かけをしたりすることができた。

評価は○と△の2段階評価

10 授業改善について (主体的・対話的で深い学びの視点で)

- ・教師の促しや言葉かけは必要最低限に抑え, 生徒の発言やアクションを待つようにする。生徒が自分から行動できるような手立てを準備する。
- ・場の装飾がより現実的なものになると, 実生活で働くイメージがわかりやすいのではないだろうか。

11 単元の個人目標 (各教科・領域等) と評価

生徒	個人目標	評価	今後に向けて
g	①教師が提示した選択肢の中から, 相手を想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中1)	ア	「お面屋さん」として, 15個以上のお面の色塗りをする事ができた。
		イ	紙の持ち方を自分なりに考えながら, 線をしっかり見てお面の横紐を貼ることができた。
		ウ	小学部や中学部の児童生徒がくることを教師に確認し, 本番まで見通しをもって活動することができた。

		今後に向けて 様々な制作活動を通して制作をするときに使えるスキル(書く・塗る・えがく・切る・貼る, など)を増やす。
	②販売への見直しを持って準備に取り組むことができる。(職業分野, 中 1)	ア 授業の終わりの振り返りの時間になると, 自分で予定表のプリントを見てチェックをした。 イ 予定表を見ながら, 準備期間やリハーサル期間を考えながら準備に取り組んだ。 ウ 希望の棟に移動すると, 友達と一緒に率先して椅子や机の準備ができた。
		今後に向けて 楽しみなことだけではなく, そのための準備期間も積極的に取り組めるようになるとより良い。
h	①来場者が喜んでもらえるものは何かを考え, 選ぶ事ができる。(社会, 中 1)	ア イ 相手を想像しながら, 自分達の工夫したことが伝わるようなチラシ作りができた。 ウ 学習用PCを使ってかき氷の種類やイラストを調べ, よりたくさん種類の折り紙かき氷を作った。
		今後に向けて 授業への参加が少なかったため, 導入・制作の時間があまり確保できなかった。授業参加度を高めたい。
	②働くことに興味をもち, 活動を通して達成感を得ることができる。(職業分野, 中 1)	ア イ 本番が終わると, 「たくさんの人が来てくれて良かった。」と振り返りにまとめた。 ウ 教師から一度「袋をまとめてあげたら。」とアドバイスを受けると, 二回目以降は自分から「袋まとめましょうか?」と言葉かけをすることができた。
		今後に向けて 授業に続けて参加し, 準備から本番までの活動に取り組んだ上で達成感を得ることができるとなお良い。
i	①教師が提示した選択肢の中から, 相手を想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中 1)	ア 「お面屋さん」として, お面の色塗り, 横紐の輪ゴム通し, お面の掲示など, 教師からやり方を聞いて一人で取り組めた。 イ できたお面を数え, チェックリストに自分から数を書くことができた。 ウ タブレット端末を使って, 自分が想像するものを検索しながらお面作りができた。
		今後に向けて 集中して活動できる時間が短いため, 目と手の協応を必要とする活動により積極的に取り組めるよう, 活動を設定する。

	②働くことに興味をもち、活動を通して達成感を得ることができる。(職業分野, 中1)	ア	お客様の対応語に「ありがとうございました。」と大きな声で言うことができた。
		イ	「お面屋さん」として、相手に応じてオススメの商品を紹介することができた。
		ウ	今日は〇〇さんが来る日, 等, 予定表を確認して見通しをもち, 振り返りの時間も〇〇さんが△△を買ってくれた, 等相手意識を持ちながら働くことができた。
		今後に向けて	
		相手に応じた挨拶の仕方, 自分の興味のある人だけではなく分け隔て無く接することができるような対応を身につける。	
j	①教師が提示した選択肢の中から, お祭りを想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中1)	ア	「かき氷屋さん」として, 手順書を見ながら一人で折り紙のかき氷を作ることができた。
		イ	「夏と言えば」の質問に, イラストを見て自分なりの夏祭りをイメージすることができた。
		ウ	折り紙がなくなったら, 教師の手を引いたりケースを教師の元に持っていったりし, 次の折り紙への制作意欲が見られた。
		今後に向けて	
		教師の促しを徐々に減らしていき, ワークシートを一人で書けるように練習を重ねていく。	
	②活動の役割がわかり, 自分から取り組むことができる。(生活, 小3)	ア	練習を重ね, 受け取った物を袋に入れ, 次の係の人に渡すことができた。
		イ	近くに袋がない時は自分で袋を探そうとしたり, 次に手渡しする友達を探して両手で渡したりすることができた。
		ウ	自分の担当の「かき氷屋さん」をどの席であるのかが分かり, 自分で椅子を準備することができた。
		今後に向けて	
		練習を重ねて役割ができるだけでなく, 少ない支持や支援で役割を果たす事ができるようになってほしい。	
k	①相手を想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中1)	ア	「かき氷屋さん」として, 全校へ配布するチラシや, 折り紙のかき氷を作った。
		イ	折り紙の色を変えたり, 折り紙の色を踏まえた色塗りをしたりすることができた。
		ウ	タブレット端末やローマ字表を自分で用意し, 新しい物を作る時にインターネット検索をして想像を膨らませた。
		今後に向けて	
		相手にインタビューをして好みを聞いたり, 自分に関わる人達に分け隔て無く対応できたりするようになってほしい。	

	②販売への見通しを持って準備に取り組むことができる。(職業分野, 中1)	ア	予定表を見て, その日の活動の見通しを持つことができた。
		イ	予定表とチェックリストを見てその日の活動を確認し, チラシやチケット, 商品作りに必要な道具が何かを考えることができた。
		ウ	その日の活動を確認し, ローマ字を打つ場面では国語の教科書, 報告場面では筆談用ノートを自分で準備することができた。
		今後に向けて	
		予定がわかって見通しをもつことで, 一人で道具の準備ができたため, 道具だけではなく, 活動自体を自分で目標や予定が立てられるようになってほしい。	
1	①教師が提示した選択肢の中から, 相手を想像しながら制作する物を選ぶ事ができる。(社会, 中1)	ア	自分の好きなキャラクターを思い出し, お面を描いた。
		イ	インタビュー結果を基に, 「ライオンは〇〇くん。」など, 作る人を想像して絵を描くことができた。
		ウ	小学部の教室へ行き, インタビューをして相手の好きなキャラクターを聞き, メモをとることができた。
		今後に向けて	
		インタビューを行うことで, 相手意識を持ち制作することができた。今後も続けていきたい。	
	②活動の役割がわかり, 自分から取り組むことができる。(生活, 小3)	ア	大きな画用紙に台詞を書き, お客さんが来たら大きな声で言うことができた。
		イ	チェックリストを確認し, 教師が提示した選択肢の中からその日にする活動を決めることができた。
		ウ	授業を重ねるにつれ, 希望の棟に入室すると, すぐに机や椅子を準備し, 自分の席に座ることができた。
		今後に向けて	
		自分でどの役割をするか決める, 友達の様子を見ながらすべきことを考える, 表現する。	

ア「知識・技能」 イ「思考・判断・表現」 ウ「主体的に学習に取り組む態度」

12 単元について気付き・意見・今後に向けて

○昨年度の発展形として設定した目標や活動内容がとても良かった。

昨年度と変わり, どんな人へ商品をあげたいか, どんな相手(お客さん)が来るのか, 来たらどのような対応をするのか, など, 考えながら取り組める単元となった。